

2014 年度



タイ・カセサート大学農学部 学生交流プログラム 報告書



2014 年 12 月

..... ☆ 目 次 ☆

短期留学の受入れ

タイ カセサート大学農学部学生・教員の短期受入れプログラム実施の概要-----2

資料1 KU 農学部短期留学受入れ日程-----4

資料2 カセサート大学農学部学生、教員のアンケート回答(抜粋)-----6

資料3 カセサート大学交流プログラム チューターアンケート-----8

資料4 受入れプログラムでの交流風景-----11

短期留学への派遣

2014年度カセサート大学農学部短期留学プログラムの概要-----15

資料5 KU 農学部短期留学日程-----17

資料6 参加学生へのアンケートと回答内容の総括-----19

参加学生の報告書-----21

世界に飛び出せ！！ ～Jump out to the World～-----工藤 育美-----22

良かったイ-----鎌田 悠花-----25

二度目の海外研修を終えて得たこと、感じたこと-----鈴木 朱里-----28

追求することの大切さ-----太田 めい-----31

A Step for future-----富山 愛佳-----34

Open the door-----吉田 恵李果-----37

..... ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

タイ・カセサート大学農学部学生・教員の

短期受入れプログラム 実施の概要

(20140703)

平成 26 年度国際交流プログラム支援事業として採択された「タイ カセサート (KU) 大学農学部との学生交流プログラム」のうち、KU からの受入れ事業を、国際交流室と国際交流委員会の指導、支援のもとで資料 1 の通り実施した。

1. KU からは下記の 4 名の学部生と 1 名の引率教員が訪問し、清新寮に宿泊し、4 キャンパスを訪問して、県大の教育と研究の概要や研究成果の実用化場面を学び、秋田県の歴史・民俗・農業に触れる体験をした。終了後のアンケート (資料 2) では、プログラム内容に満足を示したものの、日程中での疲労が指摘された。KU 側からは、学部長・国際交流委員長との会談などを通じて今後の交流として数か月の Farm practice が提案された。

引率教員 Asst. Prof. Dr. Sudsaisin Kaewrueng (Assoc. Dean for Academic Affairs)

Mr. Thanakorn Wangsawang (Agronomy 学科 4 年)

Ms. Suparada Saphaphan (Animal Science 学科 2 年)

Ms. Chidchanok Pragob (Agronomy 学科 3 年)

Ms. Arada Sungkanit (学部 1 年)

2. KU の長期・短期留学経験者と 2014 年の短期留学参加予定者の 13 名のチューターは、オランダからのインターンシップ生を加えて、受入れプログラムの検討からプログラムでの交流まで主体的な役割を果たした。また、KU の男子学生の寮生活に対して 3 名の男子寮生にボランティアのサポートを依頼した。

チューター、サポーターをはじめ、寮生、竿燈会、料理同好会、茶道部、英会話クラブなど多くの学生がプログラムを支援して交流に参加した。KU 学生と直接交流した学生 (教職員を含む) 寮生への紹介 (6 月 5 日) で約 70 名、学部・国際交流室の交流会で約 60 名 (11 日)、料理サークル交流会 (10 日)・植物生態生理研の交流会 (6 日) でそれぞれ約 25 名、寮での送別会 (16 日) で約 25 名に達した。各キャンパス・学科などで対応を含めるとさらに多くの学生・院生が KU 学生に接触した。チューターのアンケート回答 (資料 3) では、本学部学生が国際交流を体験する機会として十分に活用したことと、今後の改善に向けた要点が示された。

3. 経 費

1) 学部長留置予算

合計	93,934 円
内訳	
1. 交通費・入場料・駐車料金など	15,390 円
2. 寮寝具	7,600 円
3. 田沢湖ロッジ経費	46,330 円
4. 教育・研究活動補助	5,623 円
5. 学生アルバイト	19,000 円

2) 6 月 11 日交流会に向けた募 金

収入

募金額	40,586 円
支出	
カフェテリアへ支払	30,000 円
料理同好会材料	10,586 円
支出計	40,586 円

(ご厚志、ありがとうございました)

4. お 礼

総合科学教育研究センターを含む秋田キャンパス、寮の利用やフィールド教育研究センターを含めて対応いただいた大潟キャンパス、能代キャンパスおよび本荘キャンパスの教職員、学生の皆様には、プログラムへの参加、ご協力をいただき、大変にありがとうございました。連絡不足など不十分な点をお詫びし、今後の改善に努めたいと思います。

2014 年 7 月

担当教員：森田弘彦、蒔田明史、今西弘幸、櫻井健二、小川敦史、曾根千晴

資料 1. KU 農学部短期留学受入れ日程

2014年6月

暦日・テーマ	行動・行事	暦日・テーマ	行動・行事
6月5日 (木) 寮生活オリエンテーション	12:45 秋田空港着 15:00 学生寮着 16:00-16:30 寮オリエンテーション・寮規則説明 18:00-19:00 夕食 (学生寮) 寮生と交流会	6月8日 (日) 秋田の自然 (森林・林産) の視察と体験	昼食 14:00 深浦発 15:30-17:00 木高研視察 19:00-19:30 夕食 (学生寮)
6月6日 (金) 秋田キャンパスオリエンテーション	7:00-7:30 朝食 (学生寮) 7:50-8:40 大潟C発 (学バス) 9:00-9:20 理事訪問 (管理棟会議室) 10:30-11:30 県大オリエンテーション (M109) 12:00-12:50 昼食 (カフェテリア) 13:00-15:30 秋田Cツアー バイテクセンター・図書館ほか 16:00-19:00 植物生態生理研究室 歓迎会 (日本コメ・炊飯体験・食味試験・夕食: M204) 20:00 学生寮へ (学バス)	6月9日 (月) 大潟キャンパスの研究と教育視察と体験 (園芸学を中心に)	8:00 朝食 (学生寮) 8:50-9:20 大潟C説明 (FC マイクロバス) 9:30-10:30 干拓博物館見学 10:40-12:00 アグリビジネス学科紹介 12:00-12:50 昼食 (学生寮) 13:00-14:00 FC 紹介 14:00-17:30 FC 圃場実習 (リンゴの摘果、イチゴ・トマトの収穫、鉢花の播種・鉢上げ) - 19:00-19:30 夕食 (学生寮)
6月7日 (土) 秋田の歴史・文化・生活体験	7:00-7:30 朝食 (学生寮) 7:45-8:20 大潟C発 (大潟村マイタウンバス) 8:41-9:17 八郎潟駅-秋田駅 9:45-12:00 久保田城址、県立美術館、市民市場 12:00-13:00 昼食 (秋田駅前) 13:30-14:10 民俗芸能伝承館 14:30-17:15--自由行動 (買い物等) 17:37-18:10 秋田駅-八郎潟駅 18:15-18:40 (大潟村マイタウンバス) 19:00-19:30 夕食 (学生寮) - 寮生と交流会 (学生寮)	6月10日 (火) 果樹・園芸の科学 サークル・学生交流	7:00-7:30 朝食 (学生寮) 9:30-10:10 大潟C発 10:30-12:00 模擬講義 (園芸学関係: E106) 12:00-13:00 昼食 13:00-15:30 模擬実験: 光合成測定 16:30-17:00 学生サークル交流 (竿燈会: 体育館) 17:20- 調理体験 (きりたんぼ・鍋・てんぷら: 料理同好会: 実験圃場の実験室) 20:00 学生寮へ (学バス)
6月8日 (日)	世界遺産 白神山地見学 7:00-7:30 朝食 (学生寮) 8:30-10:30 寮--深浦 十二湖視察	6月11日 (水)	7:30-8:00 朝食 (学生寮) 9:00-11:00 生物環境科学科紹介 12:00-13:00 昼食

	行事・行動		行事・行動
6月11日 (水) 環境・応用・生産科学科の研究と教育	13:00-15:00 応用生物科学科紹介 15:10-17:10 生物生産科学科紹介 16:30-17:00 Dr. Sudsaisin・学部長・国際交流委員長会談 17:30-19:30 学部・国際交流室 歓迎交流会 (カフェテリア) 20:00 学生寮へ	6月14日 (土)	14:00 十文字道の駅発 17:00 東京外語大田沢湖ロッジ着(泊)
6月12日 (木) 県大発の研究成果の実用化事例の視察	7:00-7:30 朝食 (学生寮) 7:50-8:40 大潟C発 (学バス) 9:00---秋田C発 10:30-12:00 本荘C訪問 (施設見学) 12:00-13:30 昼食 (西目ハーブワールド) 14:00-15:30 植物工場見学 (低カリウム野菜・果菜水耕栽培：にかほ市) 18:10 学生寮へ (学バス) 18:30-19:30 夕食 (学生寮)	6月15日 (日) 秋田の伝統文化と農林業発達史の学習	7:00-7:30 朝食 8:30-10:30 田沢湖見学 秋田杉人工林、湖畔など 11:00-12:00 角館 見学 石黒家、樺細工伝承館 13:00-14:00 昼食 14:00-17:00 移動 (買物含む) 18:00 学生寮帰着 送別会 (寮生有志)
6月13日 (金) コメと水田の科学 プログラムのまとめ	7:00-7:30 朝食 (学生寮) 9:30-10:10 大潟C発 (学バス) 10:30-12:00 模擬講義 (日本のコメ：E106) 12:00-13:30 昼食 14:30-15:30 プログラムまとめ (KU 学生からのプログラムに対する意見などを APU 学生と討議 M204) 16:00-17:30 学生サークル交流 茶道部 18:10 学生寮へ (学バス) 19:00-20:00 夕食 (学生寮)	6月16日 (月)	7:30 朝食 (学生寮) 7:50-8:40 大潟C発 (学バス) 9:30-10:00 秋田C (管理棟会議室) 帰国挨拶・修了証授与 小嶋理事 (国際交流室長)、吉澤学部長、サポート学生、担当教員 10:10-11:30 秋田C発 (学バス) 12:50 秋田空港チェックイン 13:50 秋田空港発
6月14日 (土) 果樹生産の現場での学習	7:30-8:00 朝食 (学生寮) 8:30 大潟C発 10:45-11:30 横手市増田果樹農家 見学・作業体験 (小松谷リンゴ園： 卒業生) 11:30-12:00 まんが美術館 12:30-13:30 昼食		

資料 2. カセサート大学農学部学生、教員のアンケート回答

(抜 粋)

Evaluation Form

For improvement of Student Exchange Program between Faculties of Agriculture,
Kasetsart University and Bioresouce Sciences, APU

June 05—16, 2014

II. Evaluation to Program in APU

(Please check A: Excellent, B: Good, C: Average, D: Poor)

- | | |
|--|-----------------|
| 1. Reception of staffs and students of APU | (A:5 B C D) |
| 2. Understanding about Akita and Japan | (A2: B3: C D) |
| 3. The period of overall Program | (A2: B3: C D) |
| 4. Contents of the Program | (A 5: B C D) |
| 5. Accommodation during the Program | (A3: B2: C D) |
| 6. Meals during the Program | (A3: B1: C1: D) |
| 7. Transportation during the Program | (A3: B2: C D) |
| 8. Precision and information regarding to the schedule | (A4: B1: C D) |
| 9. The benefit of the experiences from the Program | (A5: B C D) |

III. Please respond to the following questions.

1. What was the best experience for you in the Program?

- * I get knowledge about Agriculture sciences, new technology that different Thailand. I get new culture such as food, language and I get many new friends.
- * I get new knowledge have a good experience and good friendship.
- * In this program, I experience about practices in Field (thinning apple tree harvesting tomato, go to forage paddy)
- * In 9th June Field practices by Dr. H Imanishi, I'm very excited and really fun.
- * APU has readiness for handling exchange student program, i.e. dormitory, campuses, staffs and students. I must say that all are my good experience received in this trip.

2. What are the unsatisfactory or inadequate matters in the Program?

- * I think this program is best program because you can set the program to divisibly.
- * I live living in the dorm I have many new friends. And I get a life same students here
- * In the program, inadequate matter about teacher, friend take care is very good. I'm impreciate. Unsatisfactory matter about comfortable to the airport but It's OK.
- * In the program is a long time in 1 day, so I'm little tired in every day.
- * None

3. What are needed to improve the Program?

- *some day and activity is very ocercrowded so I feel tired.

- * Some time activities overcrowded, I might feel feel tired. But I'm every happy and enjoy.
- * I need the schedule in The day is not many program. Some day is very easy but some day is very heavy. But It's OK.
- * I think in the program the period of overall program may be can and more days. I think 2 weeks is good for me.
- * Part of visit department, lab, you did some in different way. For me, I prefer the way of using students in part of presentation their work. That way seem good.

4. What are your impressions on Dormitory?

- * I appreciate in the way of your management in living together in a dorm, i.c. cleaning regulation by using slipper inside dormitory. Students and officers are very kind. Meals are also fine for me.

IV. Please give your suggestions to promote students exchange between KU and APU.

- * If you can join in this students exchange between KU and APU, I will get many knowledge and high technology such as plants, resistance disease, products by plant and animals etc. You will get relationship between 2 university and you can know about culture. I hope you will join program see you.
- * Lovely new friends, clean, safe and a great deal I was very iMpressed, a very good events. If I have a chance I would return to APU. In future I will to take care of APU students exchange. Is The dest, I will try try best.
- * Student exchange between KU and APU is a wonderful program. Just you joy in the program, you can learn about many things (friend, teacher, culture, food, technology, high knowledge. And best thing) I want to say, "I thank you for opporyunity sent me in this program. It's a good thing In my life".
- * I think Akita City and APU is very good. I can feel the nature and countryside at here it very different from Bangkok. Within the program it very interesting I learn a lot about Agriculture in Akita. In my opinion O get a lot of experience here. Have many new friends. I think when I come back to Thailand I'n miss here and I can not forget at all.
- * All participants will learn and share not only knowledge but also friendship & culture. I hope that good relation of them will lead to a efficient mechanism in carrer after graduations.

(注：原記入のままとし、スペル、文法上のミスを修正していません。)

資料 3. カセサート大学交流プログラム チューターアンケート

(回答者 13 名、抜粋)

3. 交流プログラムに参加して良かったですか。交流して感じたことや KU 学生の印象について書いて下さい。

1. とても良かった : 10 2. まずまず : 2 3. さほど良くなかった : 0

- 短い期間でしたが、KU 学生が寮に滞在していたこともあり、共有する時間を多く持てたので交流をたくさんすることができました。KU 学生は英語が得意という訳ではありませんでしたが、辞書などを利用することでコミュニケーションをとることができました。
- KU の学生はフレンドリーであった。
- KU 学生と仲良くなれたし、楽しくすごすことができた。KU 学生は、英語もうまいし、優しいし、活発な方々であった。
- 昨年より、英語が聞き取れる自分に気付くことができた。また、互いの国の文化や流行しているものを教え合い、相互理解に繋がったと同時に、そのやりとりの中で、相手に物事を伝える術を身につけられたのではないかと考える。(ジェスチャーで伝えたり、絵や違う単語で伝えたり・・・)
- 交流してみて、自分の英語力の現状を知るととても良い機会になり更に勉強したいという意欲が高まった。また、KU の学生さんはとても明るく、積極的にコミュニケーションをとってくれた。
- 上手く話せなくても積極的に行くスタンスで対応したが、相手が何を考えているかもよく分からなかったので不安だった。KU 学生は人当たりがよかった
- みんな積極的に動いてくれたり、話しかけてくれました。
- 英語が苦手なため、自分から話しかける機会が少なかった。KU の皆さんは明るく話しかけてくれ、とても良かった。
- 県立大生も KU 学生も互いに友好的に接することができていて楽しかったです。
- 交流成果を発信するために、大学保有のビデオとカメラで記録をすることが望ましいと思った。
KU 学生の印象 KU 代表として県立大学と積極的に交流していると感じた。
- 最初、英語に独特の訛のようなものがあり聞きとりづらかったが、話をしているうちにだんだん聞きとれるようになった。タイの学生の皆さんはとてもやさしく親切だった。また、私たちよりとても英語が堪能であったと感じた。

4. あなたが参加した交流プログラムの良かったと思う点、改善すべきだと思うことがあれば書いて下さい。また、こんなプログラムがあればいいのではという提案があれば書いて下さい。

・良かった点

- 学生どうしの交流する時間が多くもてた。事前に交流会のお知らせをしていたので、カセサート大学と交流がなかった人も参加する機会があった。
- 相手の見たい点(園芸など)を意識したプログラムで良かった。
- 参加したすべてのプログラムで KU 学生としゃべる時間が多めにあったこと。
- プログラムの構成は充実しており、良かったと思う。
- 土日も秋田の歴史等を学べて有意義だったと思う。
- 彼らのプログラムに参加することでいっぱい話せたこと
- 料理がおいしくできました。
- おわかれ会など、一緒にお酒飲んだり、食事をする機会があったことは、互いの距離をちぢめる為にとっても良かったと思います。

- イス取りゲーム
- 夏にタイに行く前に、学生さん達と交流できたり、現地の様子を聞けた点

・改善すべき点

- 昨年度の交流の様子やサポーターの仕事を事前に知ることができたら、今年から参加のサポーターもやるべき事がイメージしやすかったと思う。
- 泊まる場所なのでなんとも言えないが、寮でイベントがあると参加しにくいので、どこか別のところか、バスなど出してくれると良かった。
- 料理サークルの時に、どこまで、手伝えばいいかわかりにくかった。
- 先生方の長距離の運転が大変そうだったこと。
- 朝のバスの時間が早いときがあった。学生さんに疲れがみられた。
- 県大生間の連携があまりとれてなかった？
- 段どりがうまくいきませんでした。すみませんでした。
- Sometimes it is a little busy, but luckily there was the possibility of adjustments when needed.
- ・記録（ビデオ、カメラ）を毎日する。 ・教員の方が KU 学生と話をした際に、内容を訳して頂けたら有難い。
- もう少し、留学生が来るということを知ってもらえれば良いと思った。

・プログラムの提案

- キャンパスツアーの時間が多かったように思うので、ツアーだけでなくその中で専門的な勉強をできる時間（ミニ講義のようなもの、実験？）ができたほうが学生のためになると思う。
- もう少し買い物できる場所を増やすのはどうでしょう。自分たちはうれしかったです。買い物に同行していないのでわかりませんが、本人たちがけっこう楽しんで買い物しているのなら時間や場所を増やしてもいいかもしれません。
- もっと寮生全体をまきこんだ企画があるといいなと思います。
- ・スキー ・日本酒を製造している会社見学 例：秋田酒類製造株式会社様（一般の方の見学を受付けている。）

5. あなたは寮生ですか。

<寮生の方にお聞きします>

寮での交流や KU 学生の寮での生活はどうでしたか。良かったことや改善すべき点など何か感じたことがあれば書いて下さい。

- ・寮ではたくさんの人に出会えるのでプログラムに直接かかわっていない人も国際交流を身近に感じる事ができた。 ・パソコンよりも手軽なタブレットを持って来る人が増えると思うので wifi ルーターを設置した方が良いと思う。 ・洗濯や入浴に関して困ったことはないと思う。 ・食事の評判が良かった。
- サポーター以外の人とも交流できていたようなので良かったと思います。
- ・夜に KU 学生の部屋に遊びに行き会話をしたりできて楽しかった。 ・一緒に食事をする機会もあった点も良かったと思う。 改善すべき点 ・KU 学生が寮にいないときは、寮生にシャワー室を開放した方がよいと思う。
- 毎日のように夜みんなでパーティーをしてゲームを楽しんだりして、交流がたくさんできたと思う。エアコンがなかったけど扇風機を持って行って、カバーできたのはよかったと思う。
- 寮内に歓迎の幕をたらすだけでも、留学生も安心するし、寮生も留学生が来ていることを知れてよいと思う
- タイの学生の部屋と一緒に遊ぶ等できたので、より仲良くなれた。しかし、同じ人しか参加していなかったため、寮でイベント等をすればより多くの人と触れあえるのではないかと考えた。

- 一緒にお風呂に入ったり、ご飯を食べる機会があり、とても楽しかった。
- 基本的に寮生は留学生のことを遠巻きにして見ているだけで、交流している人はあまりいなかったが、男の方の留学生はお風呂で色々な人と交流していたみたいです。 学生のみなさんは夜によくパーティを開いて、夜おそくまで楽しんでいました。そのため次の日疲れていることもしばしば・・・。

6. 今後このような機会があれば参加しようと思いますか。

1. ぜひ参加したい：11 2. 多分参加する：1 3. 参加しない 4. わからない

7. 今後の本学の国際交流について期待することがあれば書いて下さい。

- 学生のうちに国際交流プログラムに参加できる機会があることは日常の学生生活への刺激になって良いと思うのでぜひ続けてほしいです。受入れ経験がほうふではないので毎回改善点が出ると思いますが少しずつ慣れればよりよいプログラムになると思います。平日は1・2年生は授業で忙しいと思うので、公認欠席にできると低学年のうちに刺激を受けてその後の学生生活に活かすことができると良いとおもいます。国際交流プログラムの認知度を高めるために先生方に協力していただいて講義前などに宣伝することができると良いと思います。
- 今回は前回よりも多くの人に参加したようで、とてもいいことだと思った。今回のように、プログラムに参加する人（KUに今度行く人）が決まっていると、こちらの学生も考え方が変わると思うし、行ったあとなごみやすくていいと思った。今後はもっと多くの人に参加し、大学全体として盛り上がれたらいいと思う。
- このような国際交流の機会をもっと増やしてほしい。 ・今回はサポーターと寮生と交流会に来た人しか交流できなかったから、他に人たちとも交流しやすいようにしてほしい。
- もっと”外国人がいて当たり前”のような環境になって欲しいと思います。皆さんにも異文化に触れる楽しさを感じてほしいからです。
- 留学生に対しわりと多くの寮生が興味をもっていたので、これからも国際交流で留学生が来てくれるといいと思う
- Try to improve multiple students more actively, now it was a pretty small group of students.
- 留学生を増やして欲しい。 交換留学をして欲しい。 留学先での単位認定（互換）をして欲しい。

8. その他、何かコメントがあれば自由に。

- ずっと英語を使って話していたので、英語がうまくなった気がする。でも、言いたいことが、すぐに英語にできなくて、もっと英語がうまくなりたいと思った。 タマラさんもプログラムにいたから、タマラさんに英語の通訳をしてもらっていた。 KU学生とも仲良くなれて、LINEやface bookを教えあったので、たまには英語でLINEしてみたいと思う。 いい機会になりました、ありがとうございました。
- KUのように大学ブランドの商品開発を期待します。Tシャツや、キーホルダー、文具 など・・・
- 以下についての紙媒体での資料（英語）を配布できたら、良かったと思う。 ・料理名やその作り方 ・茶道の説明 ・本学の学科の説明 ・秋田市、秋田県、日本

資料 4. 受入れプログラムでの交流風景



国際交流室長（理事）訪問 6月6日



清新寮で寮生にあいさつ 6月5日



バイテクセンター見学 6月6日



図書館見学 6月6日



木高研見学 6月8日



本荘キャンパス訪問 6月12日



大潟キャンパス訪問 6月9日



光合成測定体験 6月10日



園芸学模擬講義 6月10日



環境科学科セミナー体験 6月11日



本荘キャンパス見学 6月12日



学部・国際交流室歓迎会
6月11日



歓迎会 KU 学生パフォーマンス 6月11日



歓迎会 ゲーム (左)、中締め (右) 6月11日



料理同好会 (上)・茶道部 (下)・と交流
6月10日、13日



竿燈会と交流 6月10日



秋田県立美術館見学 6月7日



秋田市民市場見学 6月7日



白神山地見学 6月8日



植物工場（にかほ市）見学 6月12日



果樹農家（横手市）訪問・体験 6月14日



秋田杉長伐期林（仙北市）見学 6月15日

2014 年度カセサート大学農学部短期留学

プログラムの概要

2014 年 12 月 02 日

交流プロジェクト申請教員

森田弘彦・櫻井健二・蒔田明史・今西弘幸・小川敦史・曾根千晴

タイ・カセサート大学 (KU) 農学部との学生交流は、2014 年 3 月の部局間学術交流協定の改訂を経て、6 月 5 日から 16 日に 4 名の学生と 1 名の教員を受入れ、また、派遣として 6 名の本学学生を短期留学として派遣することが平成 26 年度国際交流プログラム支援事業として採択された。これに基づいて、①東南アジア有数の農業生産を背景としたタイの大学農学部での教育・研究の体験、②タイのコメ (生物学、生産、利用など)、食生活、文化などの学習を通じた国際感覚の養成を目的とした短期留学の引率を担当し、併せて③今後の学生交流の発展方向の探索について KU 農学部との意見交換を行った。

交流プログラムの実施に際して、国際交流室、国際交流委員会、生物資源資源科学部学部長をはじめとする各位にお礼申し上げます。

1. 参加者

参加学生：(12 名の応募者から担当教員・国際交流専門員による書類審査と引率教員・蒔田教授・専門員による面接審査の結果をもとに選考)

工藤育美 (生産 4 年)、鎌田悠花 (応用 3 年)、鈴木朱里 (生産 3 年)、太田めい (アグリ 3 年)、富山愛佳 (生産 2 年)、吉田恵李果 (生産 2 年)

引率教員：森田弘彦 (生産)、櫻井健二 (生産)

2. 交流プログラムの概略

1) KU 側では昨年 9 月に就任した Sutkhet Nakasathien 新農学部長、Donludee Jasuit 国際交流担当副学部長および Sumana Chermanakthong 職員を中心に、本年 6 月に秋田キャンパスを訪問した 4 名の KU 農学部生と引率教員、日本の大学との関係を有する学生、ナイジェリアからの留学生などが対応した。

交流プログラムの日程は添付資料 1 の内容で、事前に通知された内容から若干の変更はあったが、参加学生にとって毎日の具体的内容が前年に比較して理解しやすくなった。

2) 6 人の参加学生は、タイ到着直後から KU 学生と積極的に交流し、プログラムに参加した。これには、本年 6 月に KU 学生と秋田・大潟 C で交流したことが役立った。また、参加学生のうち 3 名が 2013 年の Guam 語学研修の参加経験を有していたことも、交流の推進に役立った。

3) 参加学生の英語能力については、事前に自己紹介の挨拶を中心とした練習を行ない、効果が認められた。ただし、施設などの紹介や専門用語を含む講義などやや長い英語に対しては、内容の理解が難しかった。このため、紹介や講義後に引率教員が参加学生の思考の整理を支援する時間を設け、質疑応答に対処した。

4) 参加学生は 2 人ずつ 3 グループを構成し、「タイのコメ」、「タイ料理」、「タイ文化」のテーマで事前調査を行い、また留学中の学習内容の取り纏めを行なうこととした。

参加学生は初の海外経験、タイ文化・産業、総合大学としての構内などに新鮮な驚きを示し、KU 学生との交流体験を通して、短期留学の目的を十分に達成したと考えられた。また、本年は受け入れと派遣の両方を実施したことで、両学部での学生の交流がスムーズに行われた。参加学生は帰国後 1 ヶ月以内にレポート (短期留学修了者アンケート) を提出した (別項)。国際交流

室による海外派遣学生留学報告会に向けて体験と成果の取りまとめを行なう。

- 5) 本プログラムの実施に際して、学内や参加学生の保証人から、本年 6 月の軍部クーデターによる治安上の不安が寄せられた。これに対して、国際交流室で在タイ秋田県人会に非常時の連絡体制を依頼したほか、担当教員としても日本語で連絡可能なタイ在住者の確保、国際携帯電話のレンタルなど安全の確保に努め、この不安な点を KU 側にも伝えた。滞在期間中、学内外で軍の駐留や検問など危険を感じさせる状況には遭遇しなかった。秋田県人会によると、日本からの高校、大学生の研修旅行が減っているとのことであったが、KU 国際コースや農学部には、山口大・広島大・岡山大・京都大・東京農大などから日本人学生が短期・長期留学に来ていた。また、昨年度は KU 学外の行動には職員のみが同行したが、本年度は複数の教員が同行したことから、KU 側としての安全確保への配慮がうかがえた。

また、引率の櫻井准教授が自身の facebook に毎日の行動の概要を掲載した (<https://www.facebook.com/kenji.sakurai.372>)。

- 6) 参加学生の健康状態に関しては、じんましんの発症とのもど痛・下痢・腹痛が各 1 名おり、参加者や教員の持参した薬で対応した。この 2 名は全てのプログラムに参加できた。帰国後、受診して措置を受け、回復に向かった。また、1 名が帰国後に発熱し、受診の結果風邪と診断され、治療を受けた。

3. 経費

○国際交流室予算	596,820 円
航空運賃（秋田空港・羽田空港・バンコック・スワナプーム空港：大韓航空の秋田-仁川便運休のため全日空便に切り替え）	89,020 円×6 名=534,120 円
記念品代	50,000 円
海外用携帯電話レンタル	12,700 円
○学部長間接経費	227,740 円
航空運賃	89,020 円×2 名=178,040 円
出張旅費	24,850 円×2 名=49,700 円

資料 5. KU 農学部短期留学日程

8月日・曜日	時間帯	行動の概要	KU 側対応教員など
21日・木	午後	秋田空港発 19:20-羽田空港発 00:25	
22日・金	午前 午後 夜	5:00 バンコック空港着 7:00 ホテルで休憩 9:00 KU 農学部本部 学部長、教職員、学生に挨拶・KU の概要紹介 10:00 国際交流担当副学部長と懇談 食品加工研究開発センター見学 KU 歴史博物館見学 学部歓迎夕食会後 KU Home 宿泊	Sutkhet Nakasathien 学部長 Donludee Jasuit 副学部長 Sumana Chermanakthong 職員、学生他 Chermanakthong 職員、学生他
23日・土	午前～午後 夜	Nongnooch 熱帯公園見学 (庭園、伝統芸能鑑賞他 : Chon Buri 県) 4 Region 水上市場視察 (Pattya 地区) 夕食後 KU Home 宿泊	Donludeeuit 副学部長 Chinawat Yapwattanaphum 教員 Sumana 職員、学生他
24日・日	午前 午後 夜	王宮見学 (Bangkok 市) 昼食 : Siriporn Zungsontiorn 博士 (2011 年流動研究員) Chatuchak 市場視察 夕食後 KU Home 宿泊	Sudsaisin Kaewuang 教員 Sumana 職員、学生他
25日・月	午前～午後 夜	8:30 農業協同組合省農業局雑草研究所見学 10:30 KU トウモロコシ・ソルガム研究センター見学 (センター長の講義、圃場、施設見学 : Nakorn Rachasima 県) Nakorn Rachasima 市場視察 (夕食) 研究センターの寮に宿泊	Siriporn 博士 Donludeeuit 副学部長 Chinawat 教員 Sumana 職員、学生他
26日・火	午前～午後	Chok-Chai 牧場見学 (酪農業、Nakorn Rachasima 県) KU Tubkwang 畜産研究センター見学 (ソーセージ加工体験、センター長の講義、牧場・	

		畜舎見学：Sara Buri 県)	
	夜	夕食後 KU Home 宿泊	
27 日・水	午前	農家水稲圃場での害虫・天敵採集体験 (Amphoe Nam Prio 村)	Tanee Sreewongchai 教員 Sumana 職員 イネ研究室の院生・学生
	午後	水田の害虫・天敵の同定・計数体験 (KU 農 学科イネ研究室) タイ米の精米、炊飯に関する講義と体験	
	夜	イネ研究室で夕食後 KU Home 宿泊	
28 日・木	午前	グアバ果実加工 (Sudsaisin 教員の講義と体 験：農業工学科)	Donludeeuit 副学部長 Sudsaisin 教員 Sumana 職員、学生他
		昼食後 KU 図書購買部視察	
	午後	タイ スイーツ調理体験 (Bua Loy の調理： 「熱帯農業コース」留学中の日本人学生約 10 名と合同で：家政学科)	Donludeeuit 副学部長 Siriporn Riebroyt 教員 Sumana 職員、学生他
	夜	学部送別会後 KU Home 宿泊	
29 日・金	全日	バンコック空港発 10:25・秋田空港着 21:20	

資料6. 参加学生へのアンケートと回答内容の総括

帰国後、参加学生に対して下記の内容のアンケートを行った。

-
-
1. このプログラムに参加するにあたって、どんなことを学びたいと思って参加しましたか。
 2. あなたの参加目的は達成できましたか。どの程度達成できて、どんな点が不十分だったかを説明して下さい。
 3. このプログラムは参加前の予想通りでしたか。違いましたか。違っていれば、どんな点が違ったかを説明して下さい。
 4. このプログラムに参加して良かったですか。次の当てはまるものに○を付けて下さい。
A. とても良かった B. まずまず良かった C. あまり良くなかった D. 良くなかった
 5. このプログラムで満足できた点、不満足だった点を教えて下さい
・満足だった点 ・不満足だった点
 6. このプログラムに参加して、あなた自身は成長できたと思いますか。どんな点が成長できたと思うかを説明して下さい。また、今回の参加を今後どのように活かしたいですか。
 7. このプログラムに参加して、あなた自身の反省点があれば以下の点に分けて述べて下さい。
 - 1) 事前準備について
 - ・タイやカセサート大学についての事前学習
 - ・6月のカセサート大学からの来訪者との交流
 - ・英語について
 - ・持ち物等について
 - 2) 現地（または、行程中）での行動等について
 8. 2013年のグアム語学研修参加者は、語学研修が今回の短期留学にどのように役立ったか、具体的な例をあげて説明して下さい。
 9. 今後の参考のために、このプログラムについて改善すべきだと思う点を教えて下さい。また、その他、参加しての感想等を自由に書いて下さい。
-
-

2014年カセサート大学 (KU) 短期留学プログラム

修了者アンケート総括

生物生産科学科

准教授 櫻井健二

本プログラムへの評価（設問 4）では 6 名全員が「とても良かった」と評価しており、本プログラムへの目的の達成度も高く（設問 2）、自身の成長も実感しており（設問 5）、非常に有意義なプログラムであったことがわかる。

本プログラムには学外の研究施設（雑草研究所、トウモロコシ・ソルガム研究所、畜産研究センター、コメ農家ほか）や様々な農業分野（農学科、農業工学科、家政学科ほか）の講義や実習、研究室見学が組み込まれていたことから、タイにおける農業や農業分野の研究に刺激を受けたことがうかがえる。KU の教員や学生が常に同行してくれたため、学生たちの助けとなり、安心感を持てたことは全員が感じているようである。

英語に関しては、勉強不足を実感しているようではあるが、英語への学習意欲も高まっており、専門用語や専門分野での英語での理解を深めたいという積極性が見られる。前年度にグアム語学研修に参加した学生が 3 名含まれていたため、本プログラムと語学研修との関連についての設問を設けた（設問 7）。語学研修を経験したことで、3 名とも英会話への不安や抵抗感がなく、本プログラムの最初から質問や自己表現ができ、語学研修が活かしていることを実感している。

貴重な経験をしただけでなく、KU 学生との交流をとおして、大切な友人ができたことを嬉しく思っており、今後もこのような繋がりを大切にしていきたいと記されている。本プログラムの直前に行われた「KU 留学生受け入れ事業」において、本プログラムへ参加予定の学生が協力してくれたことで、学生間の絆が深まっていたことがうかがえる。さらに、いままで以上に海外のことに興味を持ち、異文化交流に積極的に取り組みたい意欲が湧き、海外に出ることで日本の良さを意識するいい機会となり、自信や人間的な成長を実感している。

本格的な留学を考えるきっかけになったり、将来、英語を使って海外で仕事がしたいという意欲を持ったり、本プログラムでの経験を活かした将来像を描いている学生もいた。以上のことから、本プログラムによる国際交流をとおした学生の成長は十分に達成できたことがわかる。

カセサート大学農学部短期留学 参加学生の報告書



農学科イネ研究室の現地農家水田（Amphoe Bang Nam Prio）での害虫・益虫採集調査体験
(8月27日)

世界に飛び出せ！！ ～Jump out to the World～

4 学年 生物生産科学科

工藤 育美

1. このプログラムに参加するにあたって、どんなことを学びたいと思って参加しましたか。

私は海外に行ったことがなかったので、日本ではできない経験をすることで自分の視野を広げたいと思いました。そして、タイの農業や研究内容、タイ文化、タイ料理に興味があったので、これらを学びたいと思いました。また、英語でコミュニケーションをとることで、英語力、表現力を向上させたいと思いました。

2. あなたの参加目的は達成できましたか。どの程度達成できて、どんな点が不十分だったかを説明して下さい。

今回の短期留学を通して、様々な研究施設に行くことができ、タイではどんな研究が行われているのかを学びました。また、水田に入って、益虫と害虫を捕まえて農業の仕組みについても知ることができました。タイ文化については、伝統舞踊のショーを見たり、寺院を見学したりして、貴重な体験ができました。タイ料理は、同じ辛いといっても日本とは違う辛さだったり、デザートも日本よりもずっと甘かったり、毎日味を楽しみながら食べることができました。

英語力においては、わからないことがあったら積極的に聞くことや、自分から話しかけることができたと思います。自分の英語がなかなか伝わらないという時もありましたが、ジェスチャーをつけたり、文字や絵を書いて伝えたりと、英語で話す上での表現力も身に付いたと思います。しかし、研究施設を回ったり、講義を聞くときは、専門用語が出てきたりして聞き取るのが難しい場面が多かったです。

3. このプログラムは参加前の予想通りでしたか。違いましたか。違っていれば、どんな点が

違ったかを説明して下さい。

予想以上に様々な分野の研究施設に行けたので、学ぶことがとても多くよかったです。2 日目のボタニカルガーデンで植物をあまり見れなかったことが残念でした。

4. このプログラムに参加して良かったですか。次の当てはまるものに○を付けて下さい。

- ①. とても良かった B. まずまず良かった C. あまり良くなかった D. 良くなかった

5. このプログラムで満足できた点、不満足だった点を教えて下さい。

・満足だった点

たくさん先生方や学生さんと交流できてとても良かったです。6 月に来た先生や学生さんと再び会えたり、初めて会う学生さんとも仲良くなれて、友好関係が広がったのはとても嬉しいです。

去年留学に参加した人から象に乗ったというのを聞いて、楽しそうだと思っていたので私も象に乗ることができて良かったです。象のパフォーマンスにも参加して、貴重な体験ができました。

また、お土産を買うのが週末だけだと思っていましたが、近くにお店があるときはお土産を買う時間をとって頂いたので、買い物を楽しむことができました。また、買い物をするときは私達とカセサート大学の学生でペアになって、効率よく安全に行動することができたり、こっちのお店がいいよ！などと親身になってアドバイスしてくれたので、スムーズに買い物ことができました。買い物の時だけでなく毎日のスケジュールで先生方や学生さん達がついてくれてとても安心感が持てました。

・不満足だった点

ありません。

6. このプログラムに参加して、あなた自身は成長できたと思いますか。どんな点が成長できたと思うかを説明して下さい。また、今回の参加を今後どのように活かしたいですか。

成長できたと思います。農業や研究においてタイと日本の違い、また日本と似ているところを勉強できたので、私の卒論と分野は違いますが、視野を広げて今後の卒論に取り組みたいという意欲につながりました。タイの文化や日常生活においては、日本と違うところがとても多く、海外に出ることがなかった私は衝撃を受け、見識を広げることができました。今まで以上に、海外をもっと知りたいと思うきっかけになりました。

コミュニケーションをとる上で学んだのは、英語を怖がっちゃいけないということです。6月の受け入れ時は英語での会話が始めてだったので、何を話せばいいか不安でいっぱいでしたが、この経験があるからこそ、こういう時はこう話せばいいんだ！と学ぶことができ、今回の留学では成長できたと思います。

今後は、勉強不足だと実感した英語をもっと勉強したいと思います。私の就職する会社でも英語力が求められるので、今回の経験と英語の勉強を生かしていきたいです。また、このような海外の人と交流できる場には積極的に参加したいと思いました。

7. このプログラムに参加して、あなた自身の反省点があれば以下の点に分けて述べて下さい。

1) 事前準備について

・タイやカセサート大学についての事前学習

タイの文化やカセサート大学について事前の勉強が足りなかったと思いました。もう少し勉強していれば、話の話題にもつな

がるし、理解を深めることができたと思います。

・6月のカセサート大学からの来訪者との交流

6月の受け入れ時で私は、カセサート大学の学生さんとほぼ毎日プログラムに同行しました。英語でコミュニケーションを取るのが初めての体験だったので、英語が勉強不足でとても不安でした。

・英語について

勉強不足だと実感しました。研究施設の説明や講義では、出てくる専門用語がわからないものがあつたので、分野において英語で少し予習する必要があつたと思います。先生に訳してもらったり、質問をするときに手伝って頂いたり、情けなかつたなと思います。

コミュニケーションを取るときに、伝えたいことが日本語では頭に浮かんでいるのに、英語でうまく伝えられないもどかしさを感じました。自分の気持ちがうまく伝えられなかつたこと、相手の気持ちを知ることができないことは、もつたいないことだと改めて実感しました。

・持ち物等について

事前のミーティングにおいて、皆で必要なものを念入りに確認していたので、特に困らなかつたです。足りないものがあつた場合、向こうで買う機会もあつたのでよかつたです。

2) 現地（または、行程中）での行動等について

カセサート大学の先生方や学生さんにお土産を渡すタイミングを先生に言われる前に、周りの様子をもっと見ながら自分で気づいて行動するべきだつたと思いました。

8. 2013年のグアム語学研修参加者は、語学研修が今回の短期留学にどのように役立ったか、具体的な例をあげて説明して下さい。

9. 今後の参考のために、このプログラムについて改善すべきだと思う点を教えて下さい。また、その他、参加しての感想等を自由に書いて下さい。

今回の短期留学をする上で、早い段階からみんなで集まって、日程や持ち物を何回も確認することができたので、今後もこれはやった方がいいと思います。



レストランにあるきれいな庭でタイの友達と一緒に☆

カセサート大学短期留学に参加して、初めて海外に行けたことは、新しい経験ばかりでとても刺激を受け、自分を見つめ直すいい機会だったと思います。日本を出て初めて知る海外のこと、改めて思う日本の良さを、今回たくさん感じることができました。もっといろんな国について知りたいと思いました。また、言葉が通じないところに行き自分の英語力の低さを実感しました。私が英語を理解できなかった時、タイの学生さんが大丈夫だよ！と優しく声をかけてくれて申し訳なく感じました。自分が理解



ボタニカルガーデンで象に乗りました！！

できなかったのがとても悔しかったです。これから社会人になって、英語を使う場面が増えると思うので、少しずつ勉強して上達できるように頑張りたいです。

今回のプログラムに参加したこと、経験したことは、私の自信になると思います。自分が興味を持ったことへの行動力、判断力の重要さを深く感じました。たくさんの友達ができて、得たつながりはこれからも大切にしたいと思います。また会いに行きたいです。

最後に、このプログラムを遂行するにあたって、引率して下さった森田先生と櫻井先生、サポートして下さった猿田さん、メンバーのみんな、家族、お世話になった方々に感謝したいと思います。このような貴重な体験をさせて頂いてありがとうございました。

..... ☆

良かった

3 学年 応用生物科学科 鎌田 悠花

1. このプログラムに参加するにあたって、どんなことを学びたいと思って参加しましたか。

タイと日本の食事の違い。気候の違い。
タイ人の食事の好み。カセサート大学農学部
の研究内容。研究規模。他国の大学の雰
囲気。

2. あなたの参加目的は達成できましたか。どの程度達成できて、どんな点が不十分だったかを説明して下さい。

食事の違いは、非常に高いレベルで達成
できた。ご厚情で学食やレストラン、屋台
の食事を頂き、日本料理に比べてタイの料
理は胃腸を健康に保つために香草を使う料
理が多いと知った。また、タイ米は大変美
味しく、特にタイのもち米である「カオニ
ャオ」が美味しかった。もしも、カオニャ
オと日本米を掛け合わせたならば、温暖化
に対応して暑さに強く、かつ日本人好みの
モチモチとした食感をもつ米が生まれそう
であると感じた。



【左:カオ・マン・ガイ (ゆで鳥のつけごはんとキュウリ)、
右上:辛いタレ、右下:香草入りスープの弁当 (2014/ 8/27。
場所:水田。)] 大変美味しいです。下記の本(※2)で日本
でも作れました。※2 オルタネイティヴ・リサーチ編(2008)

ほんぽ まちかど
『本場の味レシピ タイの街角ごはん』株式会社アスペク
ト。

また、カセサート大学農学部の研究内容
の理解においては、中の下くらいのレベル
にとどまった。この理由は、畜産、雑草、
害虫、品種改良、雄性不稔などの専門的な
英単語の知識が不十分だったことが挙げら
れる。

3. このプログラムは参加前の予想通りでしたか。違いましたか。違っていれば、どんな点が違ったかを説明して下さい。

プログラムは参加前の予想通りだった。

4. このプログラムに参加して良かったですか。次の当てはまるものに○を付けて下さい。

(A) とても良かった B. まずまず良かった C. あまり良くなかった D. 良くなかった

5. このプログラムで満足できた点、不満足だった点を教えて下さい。

・満足だった点

カセサート大学の学生と移動中の車内で
毎日交流できたこと。山口大学から 30 日
間の留学中だった院生 (1 名) と 2 日間交
流できたこと。広島大学 (8 名) と京都大
学 (1 名) から、同大学国際コースの熱帯
農業(Tropical Agriculture)に 5 か月間の留
学中だった学部生達と 1 時間程度、交流で
きたこと。

広島大学には、留学生が多く在学し、日
本学生用の長期留学制度もあり、その国際
色豊かな雰囲気に触発されて個人的に留学
や海外インターンシップに行く学生も多い
と伺い、刺激を受けた。

また、来年カセサート大学から本学にい
らっしゃる予定の、Dr. Donludee 先生には
他大学と協定関係にあり、かつ学生に意欲
と語学力があれば、食費と電気代だけで留

学できる制度があるとお聞きして驚いた。広島大学はアジアの大学間の交流プロジェクトに参加しており、同様に食事代と電気代のみでカセサート大学の寮に滞在していると伺った。

・不満足だった点

本プログラムは生物生産科学科によって牽引されており、タイの米、食事、文化を学ぶという3つの目的で構成されていた。私は参加学生6名のうち、唯一の応用生物科学科だった。自己反省だが、私が過去に受講した生物有機化学や醸造などの科目などに関連した研究内容がないか、またもしもあれば少しだけ見学させて頂けるように事前をお願いしても良かったかもしれない。

6. このプログラムに参加して、あなた自身は成長できたと思いますか。どんな点が成長できたと思うかを説明して下さい。また、今回の参加を今後どのように活かしたいですか。

成長できた。自分の意思を積極的に誤解のないように伝えることが大事であると学び、簡単な英会話が出来るようになった。ジョークで打ち解ける場面が多々あったので、面白い冗談を言えるようになりたい。また、異国ではその国の簡単な会話が必要だと、トイレで横入りされた悔しさから知った。そして、人間関係や勉学等において、しておけばきっといいと思われる努力をする姿勢が変わった。

今後は、タイ人の友達とSNSで交流してタイに詳しくなりたい。そして、訪問させて頂いた様々な施設とコラボレーション出来るようなことがもし将来あれば、このご縁を生かしたい。

7. このプログラムに参加して、あなた自身の反省点があれば以下の点に分けて述べて下さい。

1) 事前準備について

・タイやカセサート大学についての事前学習

タイの簡単な会話について勉強不足だった。自己紹介や、「列に並んでいます」とい

う単語が必要だった。

・6月のカセサート大学からの来訪者との交流

受講していた機器分析の集中講義と日程がかぶったため、土日の交流会に参加できず、平日のみの参加となった。仕方がなかったが、残念だった。

・英語について

雄性不稔や害虫などの理系単語や Shall we~?のような中学英語が必要だった。

・持ち物等について

タイ語の本。爪切り。タオル。胃腸薬。酔い止め。日数分の衣服(※1)。日本の土産。電子辞書(専門的な英単語も網羅しているとより良かったと思う)。

※1 私は衣服をTシャツなどを各2着くらいと少なめにしたところ、足りなかった。滞在した KUHOME という大学内のホテルの洗濯料金は7着くらいで3000円と高かったため、自分の手で洗濯した結果、乾くのに2日間も要した。

2) 現地(または、行程中)での行動等について

交通事故と、イヌ(野良もペットも)に注意すること。



【左：土壌を学ぶ友人のカセサート大学4年生、右：私(2014/8/28。場所：大学正門前。】「こんにちは」はタイでは「サワディーカー(女性の場合は語尾がカー)」ですが、「サワディーカーマダ」と親しんでくれました。

8. 2013年のグアム語学研修参加者は、語学研

修が今回の短期留学にどのように役立ったか、具体的な例をあげて説明して下さい。

初めての海外経験だったグアム語学研修時に比べて、発言を求められる場面での質問や自己表現が意欲的にでき、英語を話すことに抵抗感があまりなかった。また、浮足立つような変な高揚感も前回よりも少なく、冷静にいられた。

9. 今後の参考のために、このプログラムについて改善すべきだと思う点を教えて下さい。また、その他、参加しての感想等を自由に書いて下さい。

今後参加される方は、英語が分からないかもしれない農家の方にお礼を言う場面(2014/8/27)があったので、タイ語で自己紹介とお礼を言えるようにされることをお勧めする。そして、中学英語の復習と、専門的な英単語の勉強のために例えば米や害

虫の英語論文を読むなどの事前勉強会が必要かもしれない。

農学部の学部長はにこやかに「皆さんぜひ熱帯農学に短期留学(5か月)してください」と仰ってください、嬉しく思う反面、自分の英語力の無さを考えさせられた。本学において、夏休みに語学学校に行ったり、TOEFL等で高得点をとって留学や海外インターンシップに挑戦したりと、海外に向けて動く学生が今より増え、本学にも留学生が増えて、色々な研究で協力し合えるようになれば、良い化学反応が起きるのではないかと思う。

いろいろな方にお世話になり、安全で、実り多い研修となり、心より感謝申し上げます。

..... ☆

二度目の海外研修を終えて得たこと、感じたこと

3 学年 生物生産科学科

鈴木 朱里

1. このプログラムに参加するにあたって、どんなことを学びたいと思って参加しましたか。

今まで日本の農業にしか触れる機会がなかったため、タイという気候や文化が違う土地で発展していった農業についても学びたいと思い参加しました。また、農業以外にもタイの文化や風習についても学びたいと思い参加しました。

2. あなたの参加目的は達成できましたか。どの程度達成できて、どんな点が不十分だったかを説明して下さい。

タイの農業について学ぶという目的については、まあまあ達成できたと思います。プログラムのタイのカセサート大学で行われている研究について、広く浅く学ぶことになっていたのですが、何か一つの研究内容についてより深く知る機会があったら良いと感じました。タイの文化や風習について学ぶという目的については、100%近く達成できたと思っています。毎日のようにタイの学生や先生方と、タイの文化について触れる機会がありとても満足することができました。

3. このプログラムは参加前の予想通りでしたか。違いましたか。違っていたら、どんな点が違ったかを説明して下さい。

だいたい予想通りだったが、移動時間がとても長くそこは予想と違っていた。

4. このプログラムに参加して良かったですか。次の当てはまるものに○を付けて下さい。

A○. とても良かった B. ますます良かった C. あまり良くなかった D. 良くなかった

5. このプログラムで満足できた点、不満足だ

った点を教えてください。

・満足だった点

農業についてのさまざまな研究施設や、研究内容に触れることができ、多くのことを吸収できたプログラムだったと思います。また、タイの文化や風習をととても良く学ぶことができ、非常に濃い異文化体験ができて満足しています。

・不満足だった点

不満だった点はほとんどありませんが、挙げるとしたら移動時間が長かったのが少し大変でした。また、9 日間は本当にあつという間で、様々なことを短期間に詰め込んだような感じだったので、もう少し長い期間でのプログラムだったら良いなとも思いました。



この写真は、短期留学一日目にカセサート大学の方々に歓迎パーティを開いていただいた時の写真です。この時初めてタイのレストランに行き、本場のタイ料理のおいしさにとても感動しました。またこの時カセサート大学の方とたくさん交流することができ、一気に仲良くなれた瞬間であったと思います。

6. このプログラムに参加して、あなた自身は成長できたと思いますか。どんな点が成長できたと思うかを説明して下さい。また、今回の参加を今後どのように活かしたいですか。

成長できたと思います。以前よりもかな

り外国の方とコミュニケーションをとることへの抵抗や恥ずかしさがなくなり、失敗を恐れることが減ったと思います。他にも、タイは日本と異なる文化が発展していることを随所で感じ体験することで、異文化を否定せず受け入れることがよりできるようになったと思います。

7. このプログラムに参加して、あなた自身の反省点があれば以下の点に分けて述べて下さい。

1) 事前準備について

・タイやカセサート大学についての事前学習

メンバーとのミーティングにほとんど参加できず、他のメンバーよりも事前学習はできていなかったと思います。また、事前学習を行ったが復習が足りず忘れていた部分も多々あったので反省すべきだと思いました。

・6月のカセサート大学からの来訪者との交流

こちらも予定の調整ができず一回しか参加できなかったのは反省すべき点だと思います。もっとカセサート大学の方たちを交流できたらよかったですと感じています。

・英語について

去年のグアム大学への留学時よりは英語で話すことへの抵抗が減り、会話する機会や長さが増えたと思います。しかし、やはり自分の考えていることをしっかり伝えるとこまではいかなかったのが、まだまだ英語のスキルが足りないと感じ反省しました。

・持ち物等について

プログラム中に、喉とおなかの調子がとても悪くなった際に、日本の薬をもっと持ってくればよかったと思いました。

2) 現地（または、行程中）での行動等について

日程の後半から、体調が優れなくて辛い時が多々あったので、体調管理をもっとしっかり行うべきだったと反省しています。また、もっと現地の方とのコミュニケーションをとればよかったとも思いました。

8. 2013年のグアム語学研修参加者は、語学研修が今回の短期留学にどのように役立ったか、具体的な例をあげて説明して下さい。

まず最初にタイの学生に抵抗なく話しかけることができたことは、前回の経験が生かされたと思っています。また、文法や発音にとらわれすぎずに、自分の思っていることを伝えようと思うことができ、前回よりもより普通の会話を楽しめた時は、グアムでの経験が役に立ったと思いました。



この写真は、8月26日にカセサート大学の畜産研究センターに訪問した際の写真です。この日は、普段なかなか触れることのない畜産について多くのことを学べ、とても新鮮で印象深かったです。実際にソーセージを作ったり、放牧されている牛を見たりでき楽しみながら見学できました。

9. 今後の参考のために、このプログラムについて改善すべきだと思う点を教えて下さい。また、その他、参加しての感想等を自由に書いて下さい。

今回のプログラムは毎日がとても充実していて、濃密な日々を送ることができたと思います。しかし、できればもう少し長い期間でゆとりもあるプログラムだと、復習やまとめの時間ができさらに良くなると思います。

参加してみて、とても良い経験をたくさんさせていただいたと思っています。留学だからこそできる、タイの学生たちとの交流や異文化体験などが本当にたくさんでき、充実した日々を送れてよかったです。カセサート大学の学生や先生方たちからのサポートも本当に手厚く、いつも親切に対応し

ていただいたことにも感激しました。私の
つたない英語での話を必死に理解しようと
してくれたり、少しでも要望があればすぐ
に対応してくれようとしたり、本当に優し
く良い方々に巡り合えたと思っています。

..... ☆

今回のプログラムでできた繋がりをこれか
らも絶やさず、ずっと連絡を取っていき
たいです。

追求することの大切さ

3 学年 アグリビジネス学科 太田 めい

1. このプログラムに参加するにあたって、どんなことを学びたいと思って参加しましたか。

熱帯での稲作について、また異文化について。

2. あなたの参加目的は達成できましたか。どの程度達成できて、どんな点が不十分だったかを説明して下さい。

ほとんど達成できた。しかし、色々なことを学べた反面一つのことをなかなか深く学べなかったのも、稲作についてもっと詳しく学ぶことができればもっと良かった。

3. このプログラムは参加前の予想通りでしたか。違いましたか。違っていたら、どんな点が違ったかを説明して下さい。

予想と違った。タイの学生と交流する機会が予想よりも多く、そのため英語を使う機会も増えとても良い経験となった。また、日本の他大学の方とも交流することができると思っていなかったのがよかった。

4. このプログラムに参加して良かったですか。次の当てはまるものに○を付けて下さい。

Ⓐ. とても良かった B. まずまず良かった C. あまり良くなかった D. 良くなかった

熱帯での農業や畜産がどのように行われているかというのを実際に見ることができ、またどのような研究を行っているのかを先生や学生から聞くことができとてもいい経験になったと同時に自分にとってはいい刺激となった。

また、勉強面だけでなく、食事の違いや文化の違い、なども身をもって体験でき、さらに同世代の友達もたくさんできた。

5. このプログラムで満足できた点、不満足だった点を教えて下さい。

・満足だった点

バスでの移動、食事、買い物、研究施設の見学などにタイの学生方が付き添ってくれたため、交流する機会も多く、わからないことや疑問に思ったことも学生方が助けてくれたのですぐに解決することができた。

研究施設の見学や講義では専門的な内容を聞くことができ、とても良い経験となった。また、勉強面だけでなく、買い物をする時間やタイの文化について知る時間が十分設けてあった為、タイという国を多く知ることもできた。

・不満足だった点

時間が限られており、また予定がたくさんあるため仕方がないということはわかっているが、移動がすべて大学の車であったため公共交通機関が使えなかったことが少し残念であった。また、公共交通機関ではないが、事前調べでトゥクトゥクについて学んでいたため乗ってみたかった。

6. このプログラムに参加して、あなた自身は成長できたと思いますか。どんな点が成長できたと思うかを説明して下さい。また、今回の参加を今後どのように活かしたいですか。

今まで英語の講義をあまり受けたことがなく、また受けたといっても自分が専門的に学んでいることではなかった。しかし、今回自分が専門的に学んでいること、例えばイネの講義を受けている際に身振りなどで話している内容は多少予想がつくが、正確に理解することはできなかった。そのような経験を踏まえて、今までは英語での単語を覚えることを避けてきたが、専門的な単語を自分の勉強していることだけでもい

いから英語でも覚えることが大切だと考えるようになった。今後は、苦手であった英語の論文を積極的に読んでいきたい。

また、質問することに対していつも消極的になってしまうが、他の参加者がどんな些細なことでも質問をしているところを見て、自分も今のままでは良くないと感じ後半では積極的に質問することができるようになった。今後も積極的に質問できるようになりたい。

7. このプログラムに参加して、あなた自身の反省点があれば以下の点に分けて述べて下さい。

1) 事前準備について

・タイやカセサート大学についての事前学習

食事や文化、稲作だけでなく畜産やトウモロコシについても少ししらべておけば講義内容の理解をもっと深めることができたのではないかと感じた。また、事前学習を作ったレジュメを各自で読むのではなく、ちゃんと発表ができればよかったと思った。



人生で初めて虫(コオロギのような虫)を食べているところ。市場で虫が調理され売られていました。

・6月のカセサート大学からの来訪者との交流

最終的にはとても仲が良くなったが、最初は人見知りをしていたためなかなかしゃべることができなかった。一方で私たちがタイに行ったときには、タイの学生方は初対面でもたくさん話しかけてくれたため、もっと初めから積極的に話しかければよか

った。

・英語について

グアムでの経験を生かして、リスニングを自分ではしていたつもりであったがまだまだ足りなかった。また英語で話す機会が多かったため、もっと多くの口語表現を覚えたり、事前にどのような所に行つて講義を聞くかわかっていたため、もっと専門用語を覚えたりする必要があったと思った。

・持ち物等について

ホテルでの洗濯料がとても高かったため、自分で洗濯する旅行用の道具を持ってこればよかったと思った。また、タイの学生方がたくさんお土産をくれたため、個人的なおみやげを持ってこればよかったと思った。

トイレに紙がなかった時があったため、トイレットペーパーは必要だと感じた。



秋田に来た際に仲良くなり、タイでお世話になった友人と帰国前に撮った写真。離れ離れになるのはさびしいが日本で再会しようと約束した。

2) 現地（または、行程中）での行動等について

タイはとても人が多いため、団体で行動する際はもう少し早足で移動する必要がある

ったにも関わらず、話すことに夢中になってしまい遅れをとったことがしばしばあった。また、他にも会話が弾んでお礼をする際にそれをおろそかにしてしまったことがあったので、今は何をすべきか良く考えて行動するべきだった。

8. 2013年のグアム語学研修参加者は、語学研修が今回の短期留学にどのように役立ったか、具体的な例をあげて説明して下さい。

グアム語学研修に行く前までは、外国の方と一対一で英語を使って会話するという機会がなかったため本当に自分の英語が通じるか不安だった。しかし、語学研修を通じて自分の拙い英語でも身振り手振りを使い一生懸命伝えれば相手にも伝わるということがわかった。そのため、今回タイの学生と英語を使って会話する際にあまり不安を感じなかった。

9. 今後の参考のために、このプログラムについて改善すべきだと思う点を教えて下さい。また、その他、参加しての感想等を自由に書いて下さい。

改善すべき点は、反省点の通りである。
私は今回のプログラムをもう一年はやく参加できればよかったと思うことがある。

なぜなら、今回のプログラムをきっかけに少し海外留学に興味を持ったからである。しかし、たとえ留学できなくても今回の経験を通して英語での専門分野の勉強、また英語自体の勉強にも意欲がわくようになった。この気持ちを忘れずにもし将来海外で活動することがあったら積極的に取り組んでいきたい。

また、経験だけでなく、大切な友達もたくさんできた。彼らとは SNS でやり取りを行っているが、そのうちの一人が将来日本の大学に行きたいと話していた。私の周りには進学する子があまりいないため、彼の話は私にとってとてもいい刺激になった。また、他の子についても SNS など頑張っているところを見ると私も頑張ろうという気になる。彼らに会わせてくれたこのプログラムに私はとても感謝している。

今回のプログラムを通して色々な体験をし、勉強面はもちろん人間的にも成長できたと感じた。それらは、私の力だけでは成し遂げることはできなく、森田先生や櫻井先生、猿田さん、タイの先生方や学生方、日本で協力して下さいました先生方、一緒に参加したメンバーのおかげです。ありがとうございました。

..... ☆

A Step for future

2 学年 生物生産科学科 富山 愛佳

1. このプログラムに参加するにあたって、どんなことを学びたいと思って参加しましたか。

私は、青年海外派遣に興味があり、農業の分野で活動してみたいと思った。そのため、日本以外の国々の農業はどのように行われているか学びたかった。青年海外派遣の活動は熱帯地方が多いので、特に熱帯地方の農業に興味がありこのプログラムに参加した。

それから、英語を上達したいと思った。実際に英会話もできるし、英語で講義を受けることができるから参加した。経験してみることで自分がどのくらいできるかわかるし、今後の英語学習へのやる気が上がると考えた。

また、海外に記憶があるうちに行くのは初めてであるので、なにか新しい考え方や世界観を知ることができるのではないかと思い参加した。

2. あなたの参加目的は達成できましたか。どの程度達成できて、どんな点が不十分だったかを説明して下さい。

農業に関する講義を異なる分野の内容で受けることができた。タイ米については実際に田んぼを見れたり、実験中のものを見ながら説明して頂いたりした。また、グアバの加工は日本では見る事ができないし、説明をしていただいたり、実際に作業をさせて貰えたり濃縮した良い経験ができた。また、タイの学生と英会話を楽しくすることができた。帰国後もお互いの facebook を見あったり、LINE したりと英語を利用することが増えた。

不十分な点としては、英語をあまり理解できないこと、自分の農学の基礎的な知識が足りないことがあげられる。理解できなくて何度も聞き返してしまったり、専門的

な英単語がわからなかったりした。先生に日本語で説明してもらっても農学の基礎知識が足りないから理解するのに時間がかかってしまった。せっかくタイに行って農学を学びに行ったのにつまずいている所が違うと思った。

3. このプログラムは参加前の予想通りでしたか。違いましたか。違っていれば、どんな点が違ったかを説明して下さい。

23 日に botanical garden に行く予定であったが行けなくて残念だった。でも、象に乗るなかなかできない経験ができた。また、食事をカセサート大学の先生方や県大の先生方、シリポーンさんにご馳走して頂いた。ごちそうさまでした。とてもおいしかったです。



象に乗っている写真

念願の象に乗ることができました。育美さんと一緒です

4. このプログラムに参加して良かったですか。次の当てはまるものに○を付けて下さい。

- A とても良かった B. まずまず良かった C. あまり良くなかった D. 良くなかった

5. このプログラムで満足できた点、不満足だった点を教えて下さい。

・満足だった点

すべて満足であった。観光も大学内の講義等も充実していた。特に 27 日の田んぼに行った日はとても印象に残っている。タイ米の田んぼや農家の家の設備を見られた上に実際に田んぼに入ることができた。その後、捕まえてきた虫を見ながら害虫や害虫を食べる虫の説明をして貰えた。また、タイ米のどのような研究をしているか、今なんのためにどんな作業をしているか説明してもらえた。とても濃い一日であった。

・不満足だった点

テュクテュクに乗ったり、屋台でもう少し買い物をしたりなど日本ではできないことをしてみたかった。日程が短くなってしまったためかもしれないが、熱帯気候でできないような植物に関する講義をもう少し受けてみたかった。

6. このプログラムに参加して、あなた自身は成長できたと思いますか。どんな点が成長できたと思うかを説明して下さい。また、今回の参加を今後どのように活かしたいですか。

日本人以外の人たちとコミュニケーションをとると違った考え方や知らなかったことを知ることができるとわかった。また、自分の英語力の無さを実感できた。今後は英語をさらに勉強してもっと英会話を楽しみたいと思った。最終的には英語を使って仕事ができるようになりたいと思った。

それから、実際に行くことで日本と外国の違いを知ることができた。常識が違うことや注意しないといけないこと、空港ですることなど学べた。このことを生かして、自力で外国に行きたい。

講義では質問の時間を設けてくれたので、日本にいた時より積極的に質問が出来るようになったと思う。

7. このプログラムに参加して、あなた自身の反省点があれば以下の点に分けて述べて下さい。

1) 事前準備について

・タイやカセサート大学についての事前学習

皆で調べあったので効率よく学べた。また、自分の担当分野を決めたことで責任感をもってしっかりと調べることができた。

・6月のカセサート大学からの来訪者との交流

寮で初めて会ったときは緊張しすぎてまったく話せなかった。田沢湖と一緒に泊まりに行ったことですごく仲よくなった。最初から積極的に話せばよかった。

・英語について

タイに行く前にもっと勉強しておきたかった。夏休みは勉強する時間を確保するのは難しいと分かっていたので、前期のうちから計画的にやっておけばよかった。カセサートの生徒と会話する時は簡単に言い換えてくれたり、何回か聞き返したりなどして、どうにか会話はできた。しかし、講義中や先生と話すときは専門的な単語や難しい内容であったり、話すスピードが速かったりして苦戦した。



シリボンさんたちのご飯

県大に来てくれた生徒、サポートしてくれた生徒、先生方、シリボンさんたちとランチ

・持ち物等について

事前に昨年行った先輩や先生に聞いたので特に問題はなかった。ポケットティッシュやウエットシートを多めに持って行った。海外用のドライヤーも先輩から借りた。

2) 現地（または、行程中）での行動等について

たまに気が抜けていて団体行動から遅れ

をとってしまうことがあった。また、質問するタイミングを逃してしまったり、質問内容をうまく説明できなかつたりしてしまった。それから、もっと英語がうまく話せたら会話も弾むし、もっといろんなことを知ることができたと思う。

8. 2013年のグアム語学研修参加者は、語学研修が今回の短期留学にどのように役立ったか、具体的な例をあげて説明して下さい。

9. 今後の参考のために、このプログラムについて改善すべきだと思う点を教えて下さい。また、その他、参加しての感想等を自由に書いて下さい。

改善すべき点としては、日程の長さがあると思う。慣れてきたころに帰ってしまったと感じる。今回は飛行機の都合上短くなったが、あと2日くらい長い方がもっと講義を受けることができたと思う。

感想

タイに行って最初に入国審査官と話した時は自分の英語で通じるか、この先どんなことがあるんだろうと心配なことがたくさんあった。6月に県大に来たカセサートの生徒が空港まで迎えに来てくれて少し安心した。県大に来た生徒と会うのは2回目でありより仲良くなれたし、初めて会った生徒ともこの短期留学中に仲良くなれた。帰国後もSNSを通して交流は続いている。日本へ帰国するときはこのメンバーで会うことは

できないんだと悲しくなった。自分が知らないことをたくさん教えてくれたり、英語が理解できなくても私がわかるまで丁寧に説明してくれたり、買い物に行けばサポートしてくれたり、皆親切で優しかった。帰国する時も手紙、写真やプレゼントなど心のこもった物をたくさん頂いた。竿燈のDVDを持って行ったら見てくれた人たちが皆感動してくれて、苦労しながらも作ってよかったとやりがいを感じた。言語や国が異なっても仲良くなれるし、お互いに新しいことを知ることができると思った。皆に会いにタイへもう一度行きたいと思った。今回の短期留学がわたしにとっては初めての海外のようなものであった。空港で何をどんな順ですればいいかわからないし、空港内にある機関も初めて知るものもあった。帰りにタイ米を持って帰るための許可を得るときに植物防疫所の存在を初めて知った。興味がわき、今後調べてみたいと思った。

講義も受けることができて、観光も充実していて良い思い出がたくさんできた。

櫻井先生、森田先生9日間ありがとうございました。

猿田さん事前準備ありがとうございました。

お陰様で楽しい充実した日々を過ごせました。

..... ☆

Open the door

2 学年 生物生産科学科 吉田 恵李果

1. このプログラムに参加するにあたって、どんなことを学びたいと思って参加しましたか。

応募当初は、熱帯植物が好きで、本場の熱帯植物を見てみたいと思ったこと、英語を10年ほど習っていたが、それを実践する機会として短期留学に行きたいと考えていた。

しかし最近になって、自分で農業をしてみたいという思いから、そのために農業についてもっと知り、これから自分が何をしたいのかについて具体的に考えたいと考え始めた。その延長として、タイ農業の特色を学ぶとともに、タイの学生が農業に対してどのような考えを持っているかを知りたいという考えも強まった。

2. あなたの参加目的は達成できましたか。どの程度達成できて、どんな点が不十分だったかを説明して下さい。

やや達成できた。

・稲から畜産にいたるまで、様々な農業分野のことが学べて良かった。

・概要の説明を受けただけで、「へえーそうなんだ」で終わってしまっているところがあるので、学んだことをもっと深めることができたらいいと思った。

具体的にはディスカッションや意見交換のテーマを予め設定し、最終的には学んだことを短期留学中(…A)あるいはそれ以降の(…B)話し合いの場に持っていきけるといいのではないかと思う。短い期間でしかない短期留学だからこそ、どのような目的で何をして、どのような終着点に落ち着けるかが大事だと思う。

→A)

①向こうの学生とディスカッションあるいは意見交換の時間を設ける。

県大生は話し合いの仕方を良く知らない

上、英語スキルの問題があるので、これを今すぐやるのは難しいが、やれたら面白いと思う。おそらく事前準備が大変になると思う。

②合宿最終日にこれまで学んだことを発表する。

発表が英語であることもあって、去年かなり苦戦したらしいが、予めテーマや課題を出して貰い、発表の流れなどを事前に準備しておけば、負担はいくらか軽減できると思う。①に比べて、やりやすくなると思う。

→B)

10月に報告会はあるが、あくまでどのようなことを学んだかを表面的に発表するだけでしかないように感じたので、例えば報告会で意見交換やディスカッションする時間を作れば、自分たちの学んだことや考えが深まっていいと思う。



Golden Teak Palaceにて集合写真

自分がタイ文化について事前学習をしていたのもあって、タイ文化に関する色々な話が聞けてすごく面白かった。

3. このプログラムは参加前の予想通りでしたか。違いましたか。違っていれば、どんな点が違ったかを説明して下さい。

非常に違っていた。

・留学中はタイの学生が常についており、

交流の機会を多く持てたことがすごく良かった。説明が良く分からなかったり聞きそびれたりした時に、バスの中でもう一度聞けたことも良かったと思う。

- ・トイレの使い方が分からなくてすごく焦った。

4. このプログラムに参加して良かったですか。次の当てはまるものに○を付けて下さい。

- ④. とても良かった B. まずまず良かった C. あまり良くなかった D. 良くなかった

5. このプログラムで満足できた点、不満足だった点を教えて下さい。

・満足だった点

・タイの学生と交流する機会が多く持てたこと。

・トイレが少ないと聞いていたので心配していたが、その分トイレ休憩を多く取ってもらえてすごく助かったこと。

・先生方がすごく学生に気を使って下さったので、快適に過ごすことができたこと。



National Corn and Sorghum Research での施設案内

トウモロコシを模した可愛いトラクターで施設内を回った。マイクで説明を聞き、その場で気軽に質問をすることも出来た。このオープンな雰囲気は自分にはすごく印象的だった。

・不満足だった点

・今は先生方が主体となって短期留学の準備を進めてくださっているが、自分たちが短期留学に行きたいと希望したことなのだから、学生も積極的に準備を手伝うべき

だと思う。

しかし、あくまで大学側で連携しているプログラムであり、生徒が企画準備するのは不都合かもしれないので、2.に書かれた話し合いの準備などを学生が中心となってやるといいと思う。

・参加者のほとんどが帰国後腹痛になった。7日目の夕食に出た生春巻きが原因ではないかという声があがっているが…?

6. このプログラムに参加して、あなた自身は成長できたと思いますか。どんな点が成長できたと思うかを説明して下さい。また、今回の参加を今後どのように活かしたいですか。

日本とは異なる環境に身を置くことで、更に自分の視野を広げることが出来たと思う。

7. このプログラムに参加して、あなた自身の反省点があれば以下の点に分けて述べて下さい。

1) 事前準備について

・タイやカセサート大学についての事前学習

行く前にこれまでの配布資料を見返していたのが良かったと思う。

・6月のカセサート大学からの来訪者との交流

言葉が通じにくい海外の学生ということで、少し話しづらかった。

体調不良などでプログラムに参加することも出来ず、あまり仲良くなれなかったのが残念だったが、短期留学を終えた今、英語を喋る感覚をなんとなく分かったので、来年また受け入れる場合は、積極的にお世話したいと思う。

・英語について

自分が心配していたよりも何とかなるところが多かった。技術よりも喋ろうとする気持ちが大事だと思った。

・持ち物等について

・洗濯がお金かかるので、一回手洗いして部屋に干したが、なかなか乾かなくて苦労した。同室の先輩がドライヤーを持ってきていてすごく助かった。

・財布や携帯などを入れておいて、すぐ取り出せるボディバック？があるとすごく便利だったと思う。

2) 現地（または、行程中）での行動等について

疲れたりストレスが溜まって、一人になる時間が欲しいとたまに思った。

しかし、同じ参加者同士の交流や集団か

..... ☆

らはぐれないために、相部屋制はいいとも思う。

9. 今後の参考のために、このプログラムについて改善すべきだと思う点を教えて下さい。また、その他、参加しての感想等を自由に書いて下さい。

先生方二人と事務の猿田さんには本当にお世話になりました。ありがとうございました。



..... ☆

2014 年度 カセサート大学農学部学生交流プログラム 報告書

作成：担当教員 森田弘彦・蒔田明史・櫻井健二・今西弘幸・小川敦史・曾根千晴
(〒010-0195 秋田市下新城野街道端西 241-438 秋田県立大学生物資源科学部)

2014 年 12 月